



年間第 8 主日 (マタイ 6:24-34)

神をすぐそこに感じて生きる

降誕節から四旬節までをつなぐ年間の主日も、年間第 8 主日で終わります。今週の水曜日は四旬節の開始となる「灰の水曜日」です。イエスは「思い悩むな」(6・25)と呼びかけていますから、心の整理を付ける何かをつかんで持ち帰ることにしましょう。

さて、来週初聖体を迎えるお子さんがわたしたちの教会にもいます。わたしにとって初聖体の思い出は白いタイツを履いたことくらいはありませんが、わたしたち田平教会の家族の中で初聖体を受けるお子さんには、ご聖体を授かった思い出を残してあげたいと思います。

小さい子を前にしていつも心を痛めるのは、ミサの説教が難しいということです。子供たちからは「何を言ってるんだらう？」といつも思われていることでしょう。初聖体のお子さんはなおのこと、「早く終わらないかなあ」くらいにしか思われていないはずです。

もしよかったら、「今日、神父さんはこんな話をしていた。聞き取れたか？」と、教会からの帰り道でご両親がもう一度説教を話題にしてくれたらありがたいです。わたしもできるだけ、帰り道でも思い出せるような話を用意しようと思います。

初聖体のお子さんには、来週二つのことを試験しようと思っています。どの教会でも同じことを試験しているので、共通一次試験のようなものです。将来堅信組になった時、二次試験をしますが、一次試験に通らなければ二次試験もないのですから、来週しっかり問いかけに答えてほしいなあと思います。試験の内容は、今週のお話からです。

今週イエスさまは、当たり前のように見ているものをたとえにしながら、大切なことを教えようとしています。当たり前のように見ているものから、「思い悩むな」と教えるのです。一つは「空の鳥をよく見なさい」(6・26)と言います。

空の鳥を養ってくださる神さまは、なおさら、わたしたち人間を養ってくださいますと教えます。もう一つは、「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい」(6・28)と言います。野の花を美しく装ってくださる神さまは、なおさら、わたしたち人間の必要にも答えてくださるのですよと教えます。

当たり前のように見ているものが二つ出てきました。「空の鳥」と「野の花」です。実はこの二つでイエスさまは、世界のすべてを表しているのです。空と大地、そこにあるものを示したのですから、空と大地のすべてを、たった二つのたとえで言い表しているのです。何とイエスさまは頭がいいのでしょうか。そのイエスさまが「思い悩むな」と言っておられるのです。思い悩む必要なんてどこにもありません。

それなのに人間は、毎日毎日悩んでいます。お母さんは献立で悩んでいるかもしれません。「あー、今日のご飯は何にしよう。昨日と違うものを考えて、家族が健康に過ごせるようにしたいなあ。」そんな悩み

があるかもしれません。

お父さんも悩みがあるかもしれません。「子供たちが将来大きくなった時に困らないように、いろいろなことを教えたり話してあげたいなあ。どうすればお父さんの気持ちが伝わるだろうか。」そんなことを思っているかもしれません。

おうちの人が子供のためにいろいろ思い悩んでいます。ひょっとしたら、気持ちはたくさんあるのに、それをうまく伝えられなくて、うまく説明できなくて、悩んでいるかもしれません。

おうちの人がそんなに悩んでいるのなら、まして神さまはすべての人に、もっと思いが溢れていると思います。みんなが食べて満たされるために、どんな食べ物をあげようか。天と地のすべてに心を配っているわたしは、人間にはもっと心を配っているよと、どうやって伝えたらよいだろうか。「思い悩むな」と、どうやって伝えたらよいだろうか。おうちの人以上に、神さまはいつも気にかけていると思います。

そこで神さまは、答えを見つけました。わたしは、御子イエス・キリストを人間の食べ物として与えよう。御子イエスが人として生まれてからお亡くなりになるまでのすべての時間を、人間を初めから終わりまで守り導くしるしとして与えよう。神さまが出した最高の答え、それがイエスさまをわたしたちの食べ物として与えること、救いの切り札としてわたしたちに与えることだったのです。

神さまはわたしたち人間を必ず養う。そのためにイエスさまがパンとぶどう酒の形のもとにとどまることをお望みになりました。一つめの質問はこうです。「パンの形のもとにとどまっておられる方はどなたですか。」「パンの形のもとにとどまっておられるのはイエスさまです。」わたしたち人間を必ず養う。わたしたち人間をいつも養うために、イエスさまはパンの形のもとにとどまっておられるのです。

二つ目の質問はこうです。子供たちはおうちの人とお話をしながら育っていきます。親子の会話は、両親が子供をいつも見守り、導いてくれることのしるしです。では、「わたしたちが父である神さまとお話しをするために、イエスさまが与えてくださったものは何でしょうか。」「わたしたちが父である神さまとお話しをするために与えていただいたのは『主の祈り』です。」

主の祈りを覚えて、お祈りすると、神さまはわたしたちに答えて導いてくださいます。幼い時だけでなく、学生が試験を受けるときも、大学や就職を目指すときにも、大人になって何か決めなければならないときも、主の祈りを唱える人に神さまは答えてくださり、導きを与えてくださいます。天と地のすべてに心を配る神さまは、なおさらわたしたち人間、それも神様に祈る人に、心を砕いてくださるのです。

初聖体は、「思い悩むな」と励ますイエスさまからの最高の贈り物です。ご聖体を与えてくださる神さまがわたしたちの神さまです。思い悩むことをやめて、信頼を取り戻しましょう。すべてにまして配慮してくださる神さまの答えを、来週の日曜日、いただきましょう。